

南九州大学 アクティブ・ラーニング&教育・研究 現状に関する事前アンケート

2017年9月19日(火)

八木亜紀子



集計結果 (n=34、未記入1)

①学部

教養教職センター	2
環境園芸	8
人間発達	8
健康栄養	16

②学科

教養教職センター	2
環境園芸	8
子ども教育	8
食品開発科	5
管理栄養	11

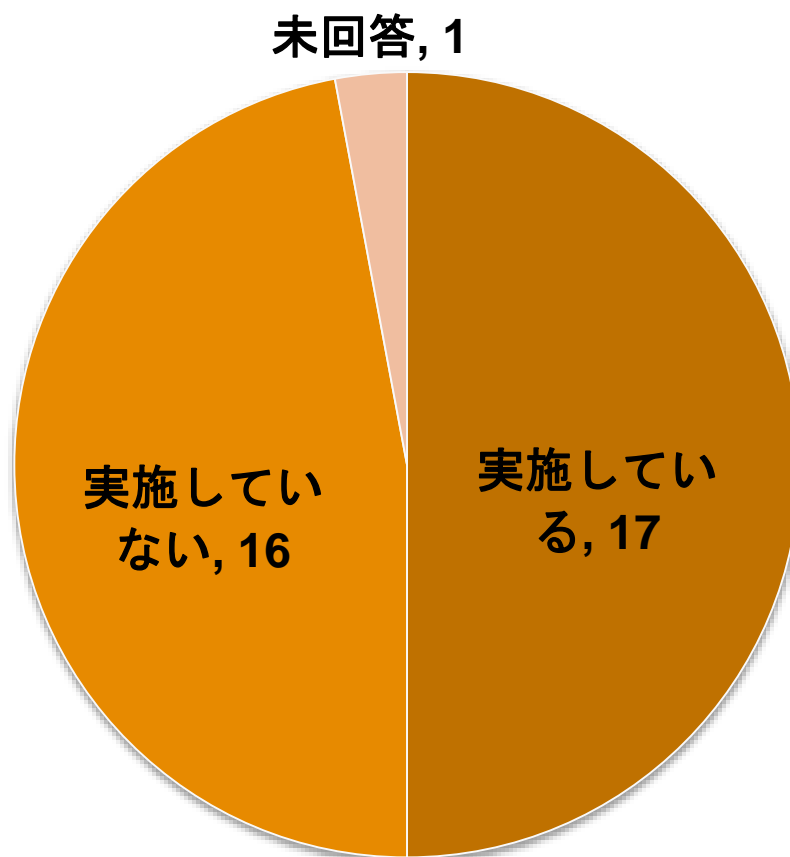
③キャンパス

宮崎・都城	2
都城	16
宮崎	16

④在籍年

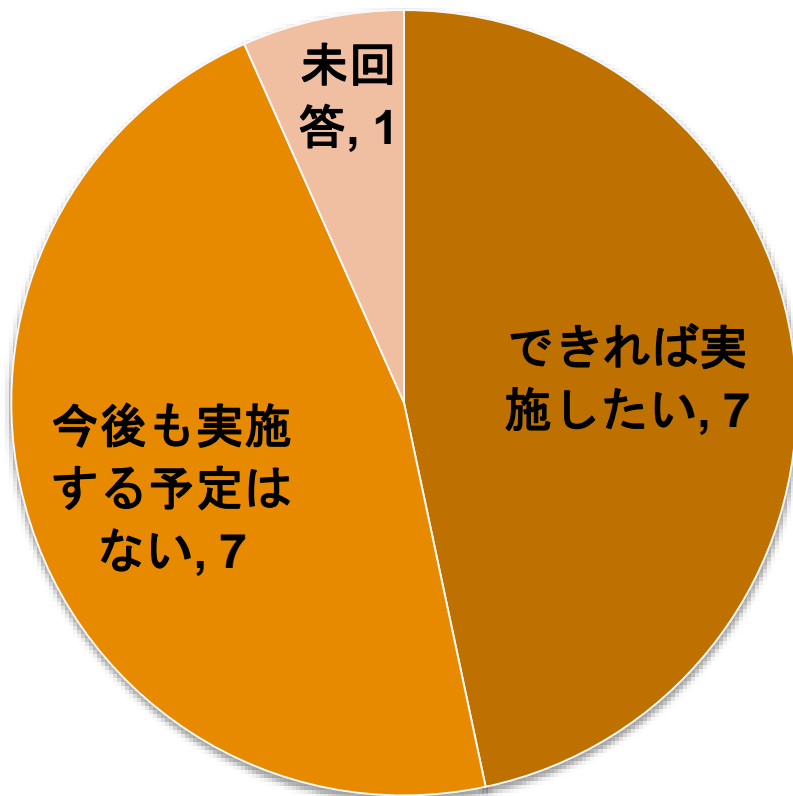
0～5年	19
6～10年	4
11～15年	6
16年以上	5

2. ALを実施していますか？

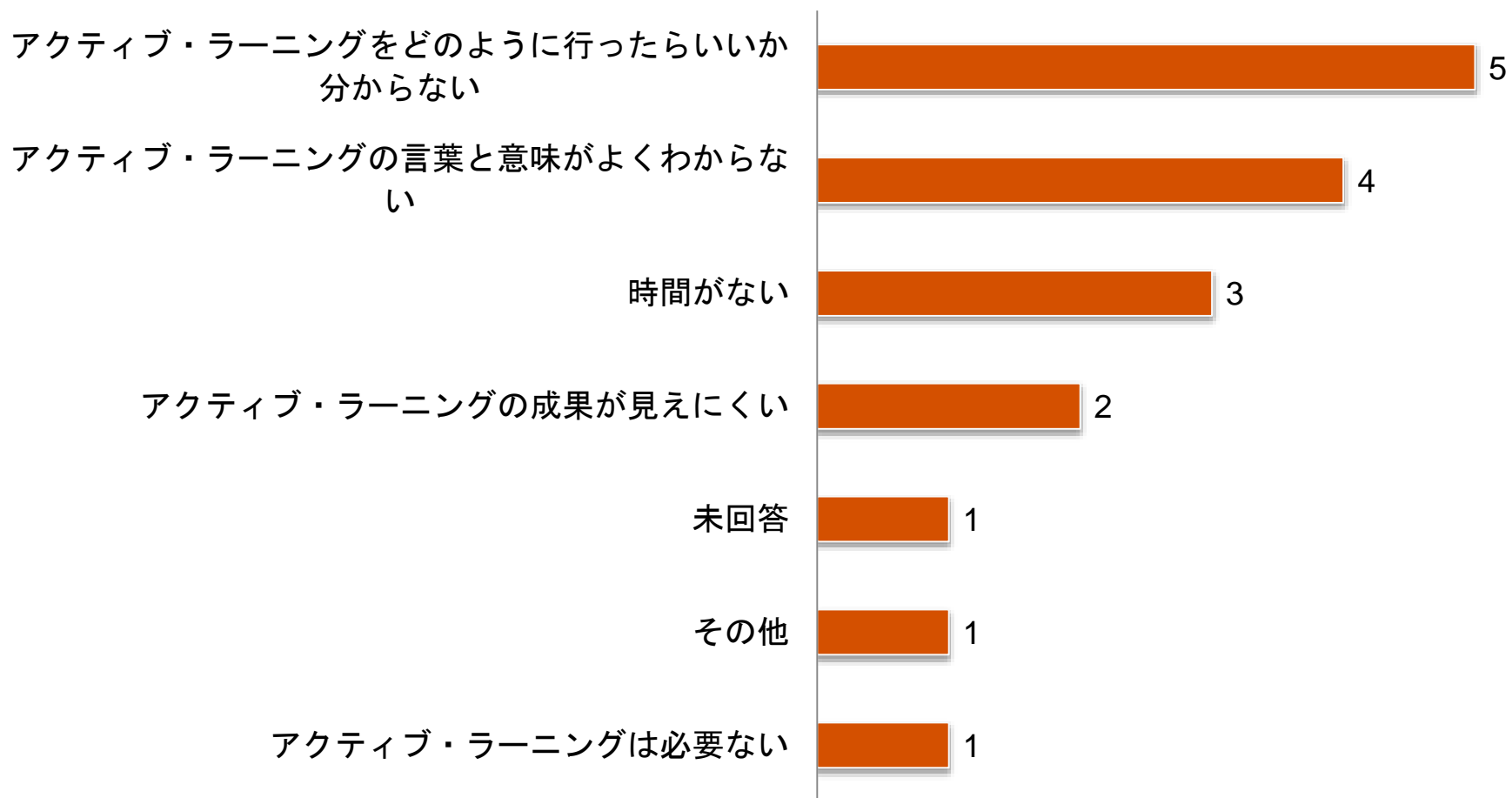


ALを実施していない方

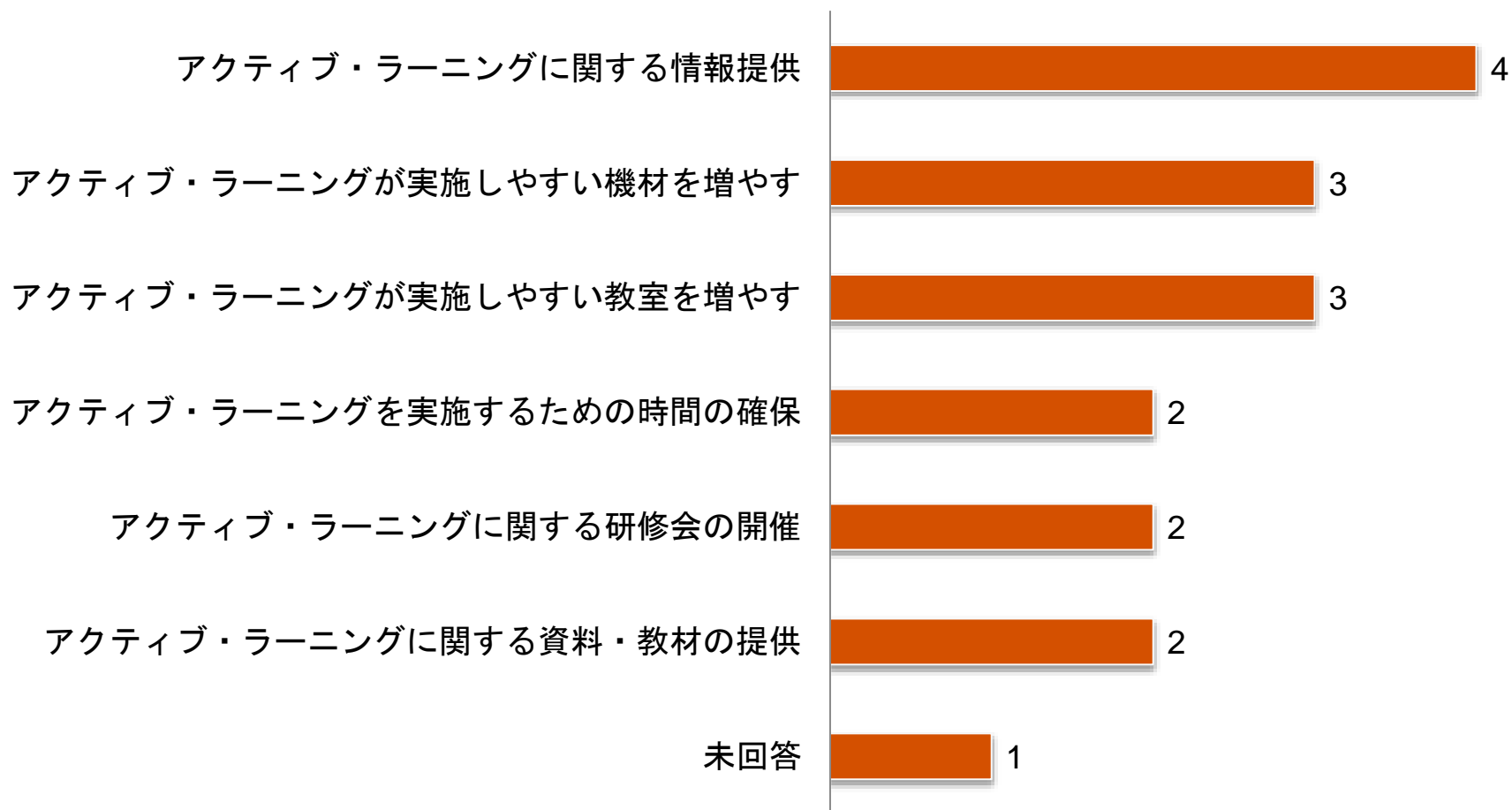
2-1. 今後実施する予定はありますか？



2-2. 実施しない理由は？ (複数回答)



2-3. どうすれば実施できそう？ (複数回答)



3, 4, 5. 実施対象は？ (複数回答)

①対象者は誰ですか？

大学1年生	7
大学2年生	9
大学3年生	15
大学4年生	11(ゼミ:4)
大学院生	0

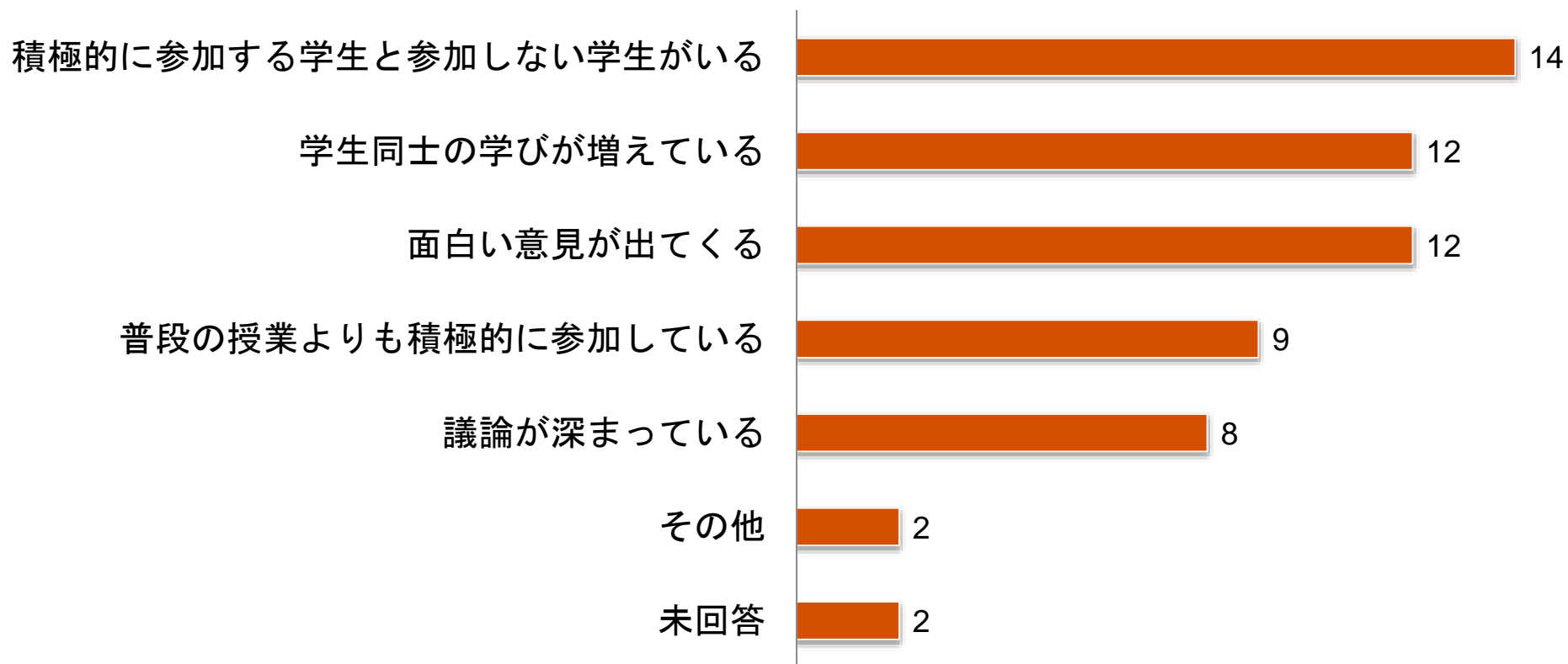
③授業の何%がAL？

100%	4
80%	7
50%	4
30%	6
10%	4

②授業の人数は？

1～10名	9
11～20名	8
21～30名	4
31～40名	9
41～50名	4
51～80名	7
81～100名	1
101名以上	2

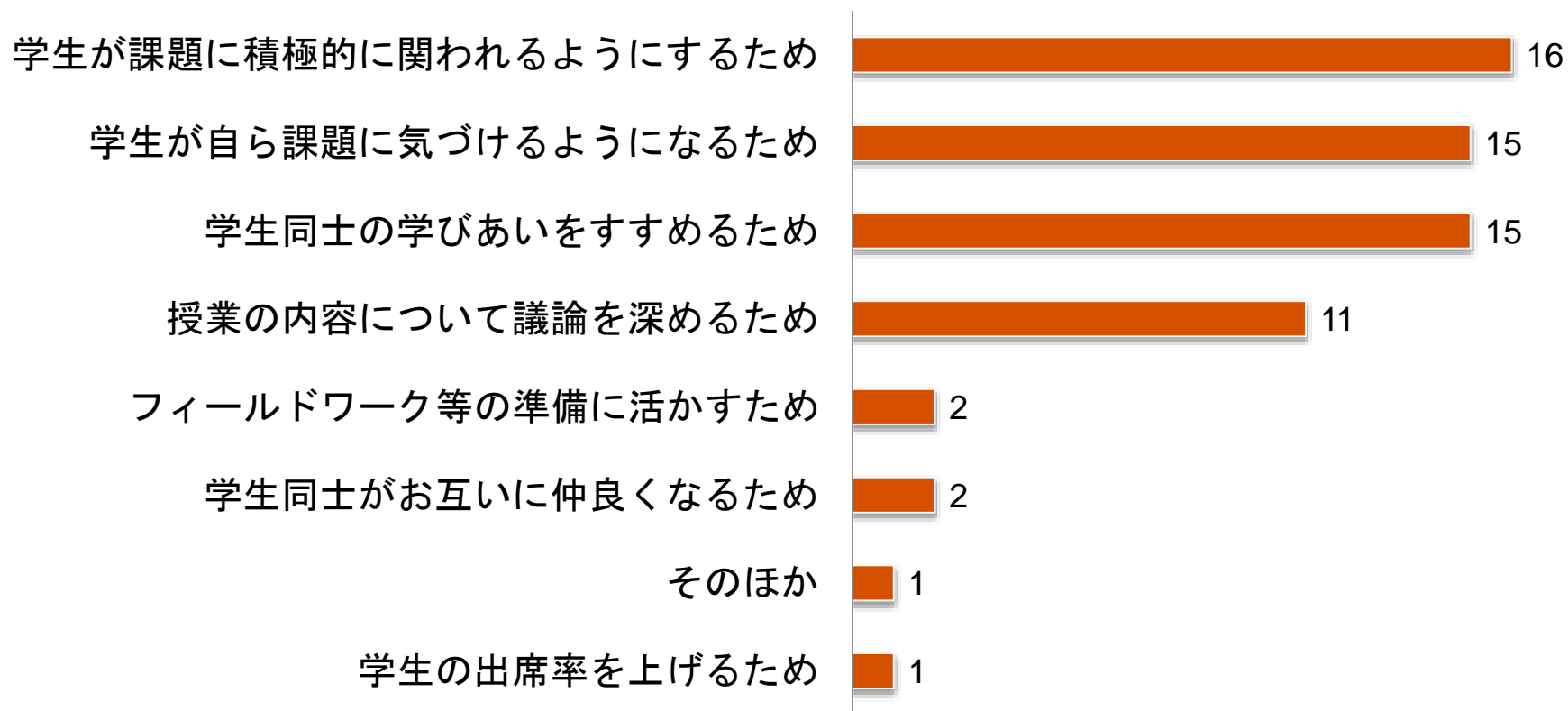
6. 学生の反応は？ (複数回答)



コメント

- 意見がない場合が多く、なかなか課題発見と問題解決に結びつかない
- 自己理解・他者理解が深まる

7. ALを実施する目的は？ (複数回答)



そのほか

•修得してきた知識と技術を実際に駆使して、実践力の向上を図るため

8. ALを行う上での問題・課題 (複数回答)

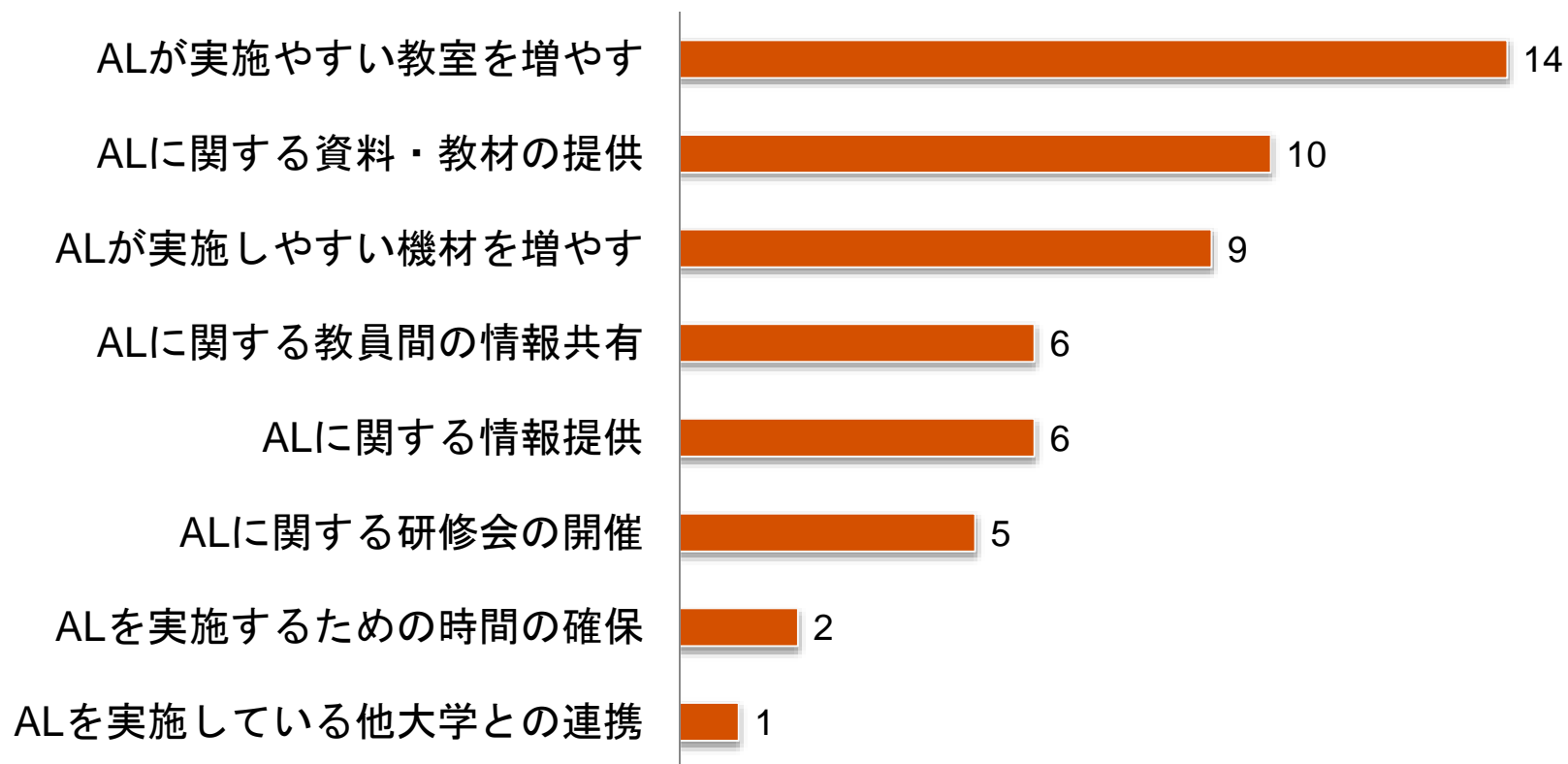


そのほか

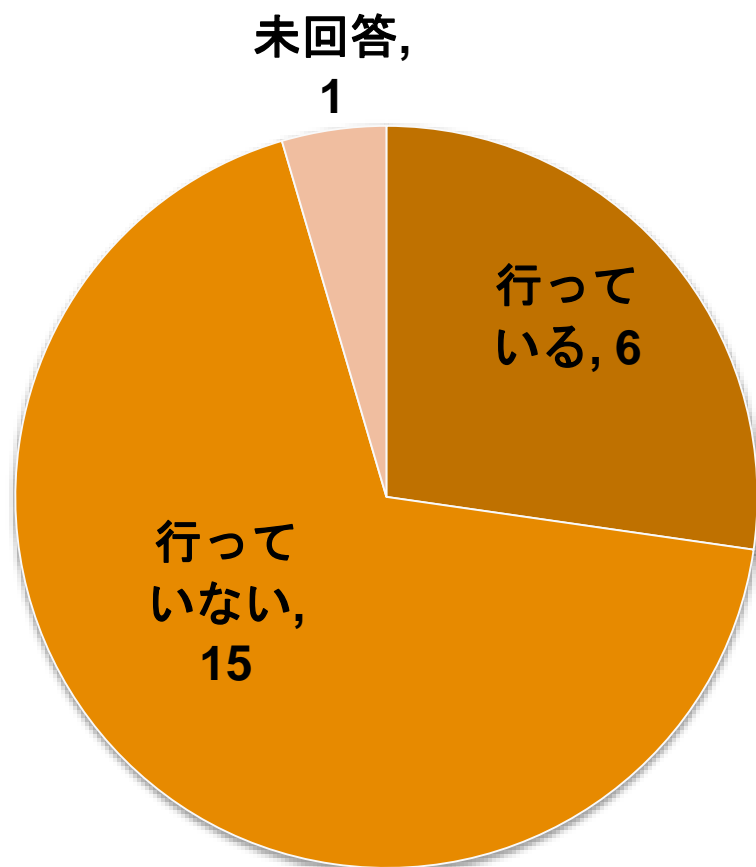
時間の割には成果が少ない、やる気を引き出せない学生がいる、話し合いをする、特に問題ない(2)

ALを実施するうえで

9. どのような支援があるとよい？ (複数回答)



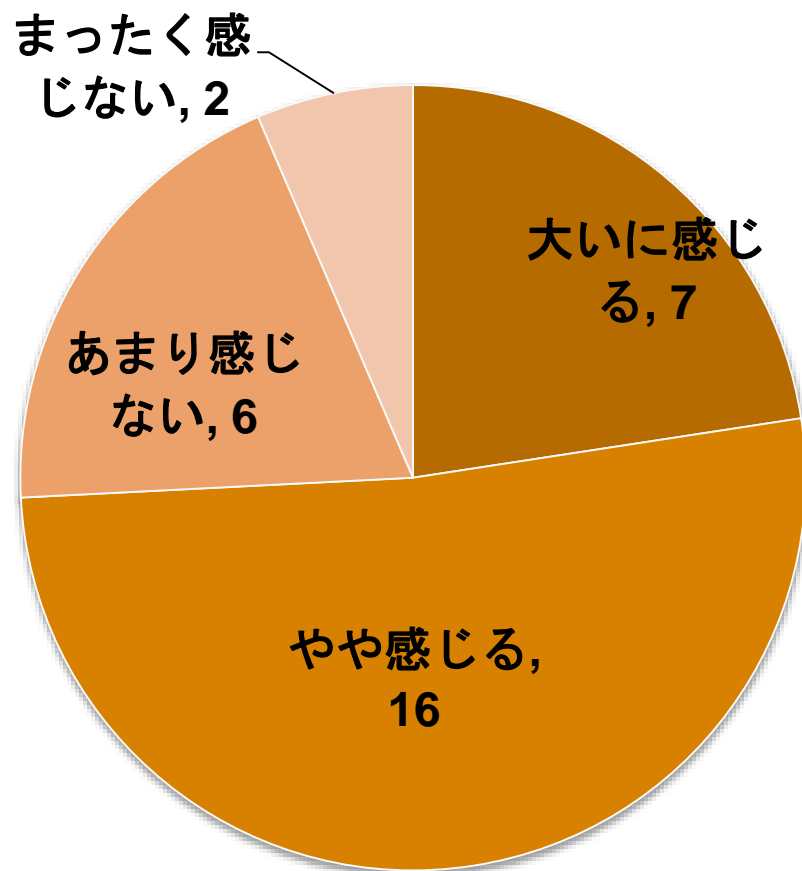
10, 11. 他団体との連携や協力



連携先

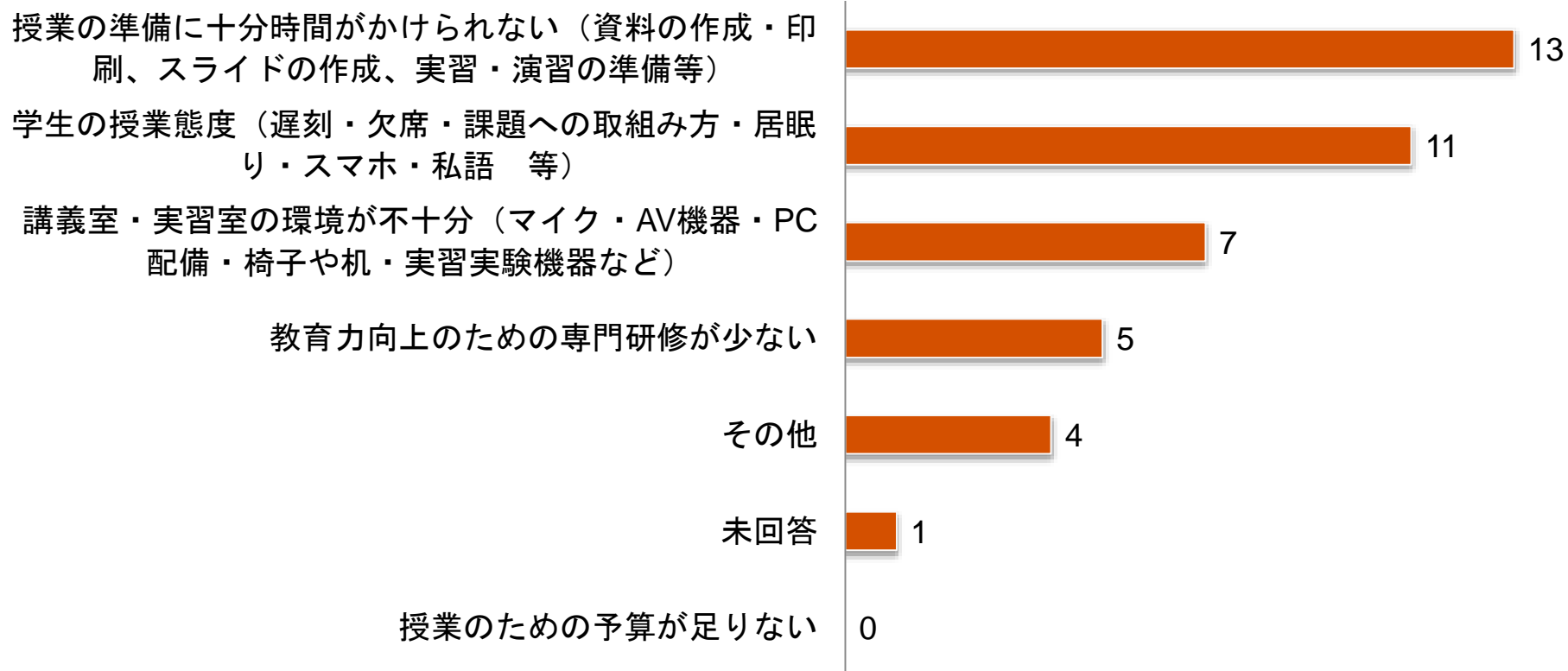
・企業	4
・自治体・政府	3
・社会福祉関連団体	1
・GDM英語教授法研究会	1
・他の教育機関	1
・他大学	1
・NGO／NPO	1
・メディア	0
国際機関	0

12. 学生の教育に多忙や負担を感じる？



大いに感じる、やや感じると回答した方

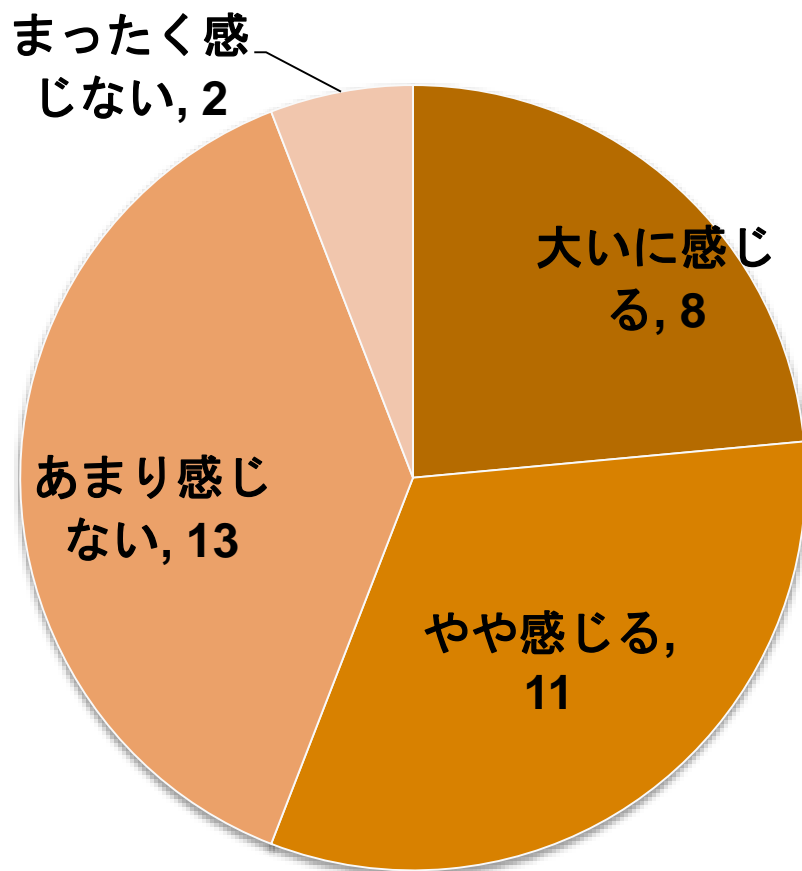
12. 多忙、負担を感じる理由は？ (複数回答)



コメント

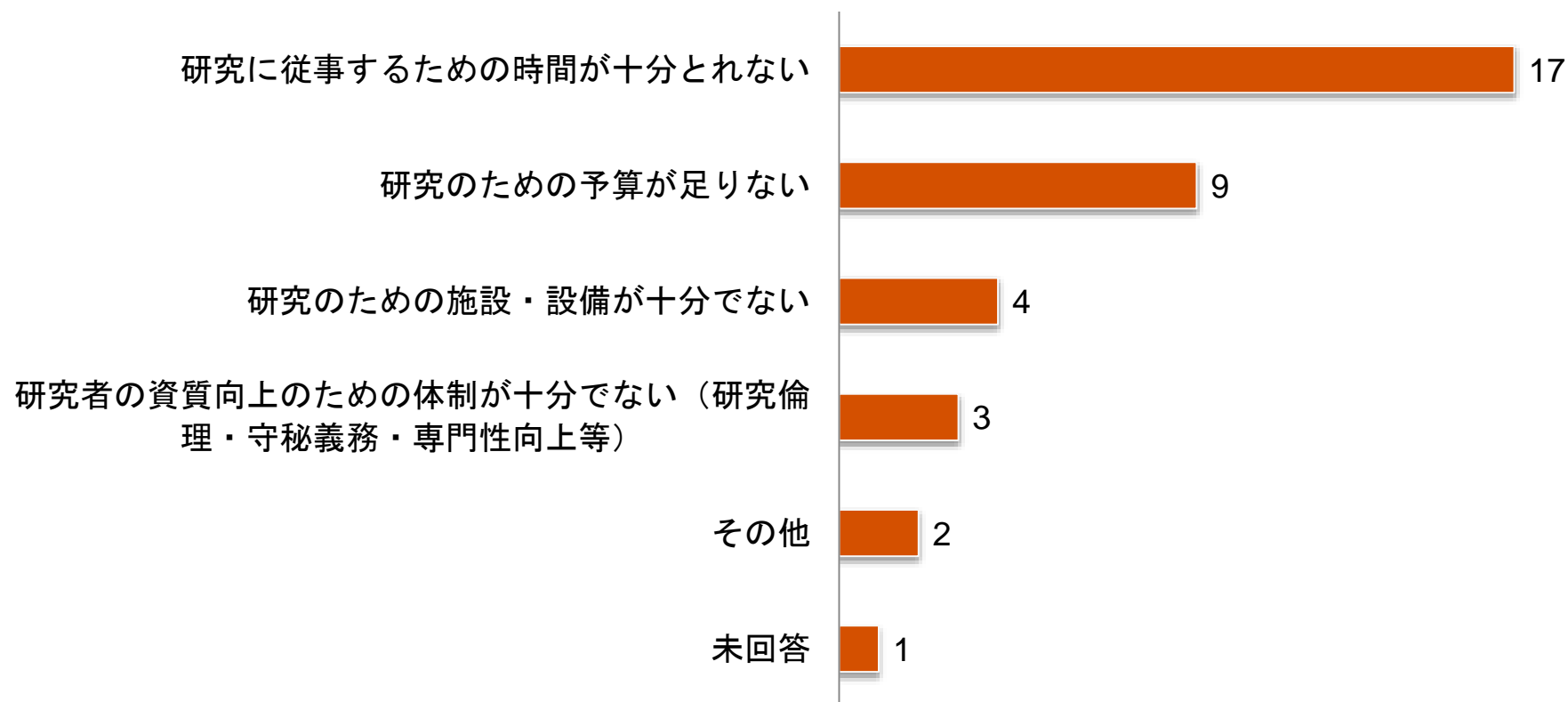
自分自身の能力不足、他の事務作業にかける時間が多すぎる、授業以外での対応、受講人数が多い

13. 自身の研究に多忙や負担を感じる？



大いに感じる、やや感じると回答した方

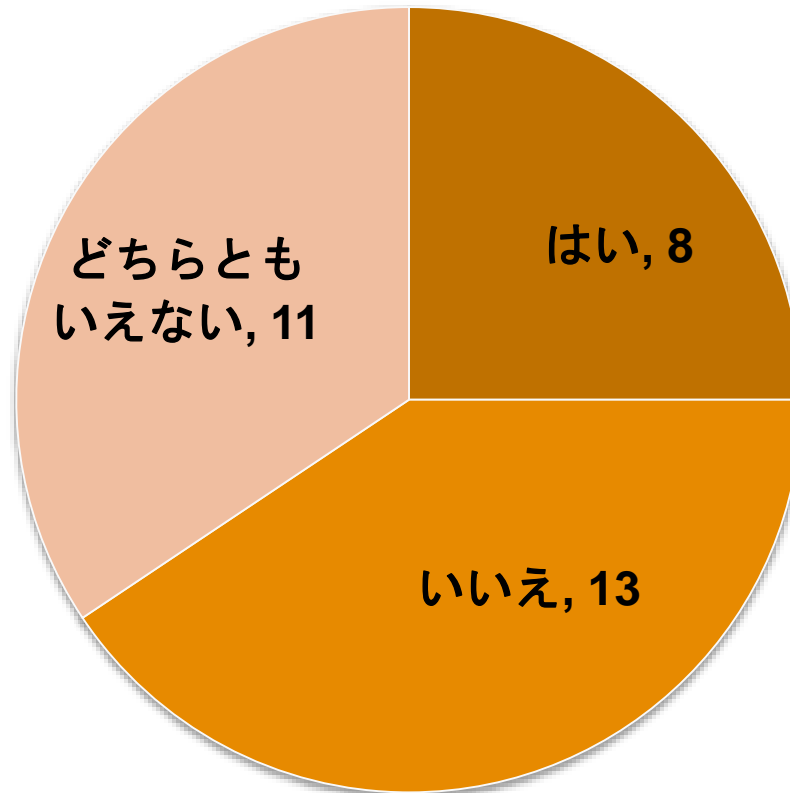
13. 多忙、負担を感じる理由は？ (複数回答)



コメント: 研究環境が変わりすぎている

昨年の同時期と比べて...

13. 自身の研究がより充実している？



14. 大学の強みや特徴(抜粋)

- 教員と学生の距離が近い
- 少人数教育、丁寧に指導ができる
- 学生が素直
- 実学を重視した教育課程
- 地域の協力を得やすい、地域との連携
- 県内唯一の管理栄養士養成課程
- 国会試験対策がある

15. 教育・研究の強みや特徴

- 生産現場との連携がある
- 地元素材が豊富にある
- 地域との連携、協力ができる
- 関連研究の競合先が少ない
- 研究費が充実、科研費に捉われない自由度
- 研究領域の多様性

16. 教育・研究を向上させるには？

教員間の協力とコミュニケーション

- 教員間の連携、コミュニケーションの強化
- お互いに情報を共有できる仕組み・組織が必要ではないか
- 研究に関して、他教員とのディスカッションの機会や、他教員から助言を受けられる体制
- 学内における研究会や共同研究をしやすい環境づくり

16. 教育・研究を向上させるには？

教育の目的・内容・手法

- 教育にしろ研究にしろ目指す方向を明確にした方が良い
- 学習意欲の高い学生の育成（成績優秀者の表彰など）
- 授業参観の義務化やモデル授業の開催など、教育の質向上のための取り組み
- ALの導入（基礎学力を高めたうえで）

16. 教育・研究を向上させるには？

研究の質の向上

- 研究室間・外部との共同研究
- 内部と外部にアドバイザーがいるとよい
- 教授の下で研究を手伝ってくれる有能な助手がいるとよい
- 成果の評価は必要があるが、テーマ選定についてはこれまでの自由度が阻害されない方がよい

16. 教育・研究を向上させるには？

事務、そのほかのつぶやき...

- 学長裁量経費などの補助(スタートアップ経費)があると活動しやすい
- 業務を効率化し時間をつくる
- 学部長、学科長役職の事務作業軽減→学部、学科のとりまとめに尽力する
- 時間と気持ちの余裕が必要です